

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 広島県 】

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	県立安西高等学校 全学年生徒（546名）
3 展開の形式	（1）学校における活動 ① 行事名（オリンピアンによる講演会と実技）
4 目標 （ねらい）	オリンピックの意義や価値・経験談などをオリンピアンから直接聞く体験を通して、オリンピック・パラリンピックムーブメントを推進し、生徒のスポーツに対する学びを深める。
5 取組内容	オリンピアンによる講演と実技「夢を実現するために」 講師、塚原直貴（つかはらなおき）氏、北京オリンピック 400mリレー銀メダリスト。
6 主な成果	オリンピアンの経験談を直接聞く体験を通して、オリンピックやスポーツに対する理解や興味・関心が深まった。 質疑応答の場面で、生徒からの自発的な質問が多く出てきた。日頃の部活動と関連付けて、夢を実現するためにはどんなことが必要であるかについて考え、学ぶ場を提供することができた。 また、昨年の課題であった実技の導入について、オリンピアンとともにダンス・ジャンピング・バランスなど様々なトレーニング法を実際に全生徒で体験し、共に走るという経験を選抜した生徒で行った。このことは講演をより深く記憶し自らの課題を考えオリンピックをはじめとするスポーツへの関心を深めることにつながったと考える。
7 実践において工夫した点 （事業の特色）	講師と入念に打ち合わせて講師と共に実技を生徒が体験するプログラムを計画し実践していただいた。プロフィール資料（プリント）を、朝SHR時、各クラスで生徒に配布し、しっかり読んで理解して講演に臨んだ。 講演後、各HR教室に戻り、事後アンケートを記入し、講演の振り返りを行った。
8 主な課題等	講演会自体は大変効果的であったが、その効果が一過性のものにならないように、教科・総合的な学習の時間・LHR・部活動等と関連付けて、継続した取組にする工夫が必要である。
9 来年度以降の実施予定	生徒がオリンピアンと一緒に実技を体感できる場面設定を今年は実践できた。今後はこの取り組みを教科・総合的な学習の時間・LHR・部活動等と連動させ、活かしていきたい。